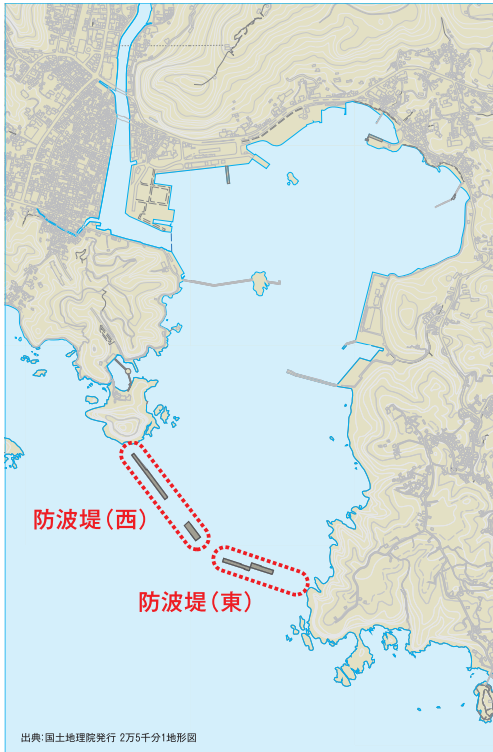




国土交通省

清水港湾事務所 100年間の主要プロジェクト 下田港 防波堤の整備

(1980~)



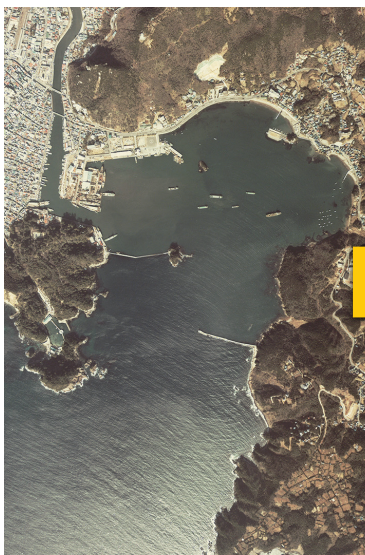
伊豆半島の下田沖は、海上交通の要衝であり、気象・海象条件が厳しい難所としても知られています。

また、下田港周辺地域は、古くから津波により繰り返し被災しており、津波対策が重要な課題となっています。

このため、下田港では、荒天時にも船舶が安全に避難できる静穏な水域を確保するとともに、東海地震などによる津波から市街地を防護する目的で、1980年(昭和55年)に、運輸省(現・国土交通省)の直轄事業として、湾口部の防波堤整備に着手しました。

最大水深45mの日本有数の大水深での施工に加え、季節風による波浪の影響で施工時期が限られるなど、難易度の高い条件の中、工事を進めています。

- 主要施設 / 防波堤(西)(延長500m) (2021年3月末時点 350m完成)
防波堤(東)(延長400m) (2021年3月末時点 255m完成)
- 構造形式 / 防波堤(西): 消波ブロック内蔵双胴型堤、消波ブロック被覆堤
防波堤(東): 直立消波スリットケーソン堤、消波ブロック被覆堤
- 事業期間 / 1980年(昭和55年)~ (2030年代完成予定)



防波堤整備前の下田港
(1983年)



防波堤の整備状況
(2019年)

防波堤の効果 (港内の静穏性向上による船舶の安全・安定利用)



荒天時における船舶の避難
(2016年3月)



下田港で初のクルーズ船「ル・ソレアル」が寄港
(2016年4月)



下田港防波堤着工式典
(1985年9月7日)



消波ブロック内蔵双胴型ケーソンの据付作業
(1998年)



80t型高比重消波ブロックの据付作業
(2002年10月)



防波堤開口部(航路部)の方塊据付作業
(2016年7月)